

具体的には、

1) 電線類地中化

- ・まず札の辻から中央大通りまでの、約 400メートルの地中化を重点区間として計画
- ・2期に分けて約 200メートルずつを事業化する等、地域生活に配慮

2) 道路修景

- ・道路両端より 1.2m程度は石畳
- ・側溝は石貼仕様
- ・道路中央部は自然色舗装
- ・一方通行化を検討

これらの事業は、今年から平成25年までの3カ年で事業化することを目標としています。

昨年には、電線類地中化の研究会・市民フォーラムの開催、ニュース発行による広報を行い、街の機運が向上し、徐々に地中化に対する意識も高まってきているそうです！ さらに、工事・トランス問題等で住民の合意を得る為に、住民・行政・専門家・関係機関が参加する協議会を作ることが検討されています。

当NPOも、地中化に関しての相談を受けましたので、高田理事長と共に頑張っていきたいと思います！

■最後に

観光するポイントは、

①大津事件の碑

(大津事件とは、1891年に日本を訪問中のロシア帝国皇太子・ニコライと大津町の警備にあっていた巡查・津田三蔵の間で起こった事件。行政の干渉から司法の独立を確立し、三権分立の意識を高めた事件)

②札の辻

(江戸幕府の法令を記した高札が立てられた場所。北国海道と東海道の分岐点にあったので、宿場の人足や伝馬を調達する人馬会所もおかれた交流と賑わいの場所)

③大津宿本陣跡

(本陣は宿場の中でも一般の宿泊施設とは違い、大名、旗本や幕府役人などの宿所として指定された格式高い宿場町のシンボル)

④旧東海道

など沢山あります。詳しくは大津観光関連のネット及び、「大津百町の歴史資源を生かしたまちづくり研究会」で検索し、そのサイトにある中間報告でご確認ください。

是非現地を訪問し、大津の街歩きの中で、魅力を発見してください！

整備のイメージ案



「私達」が住む日本の空を、「私達」が美しい空へ変えましょう！

美空～MISORA～

第30号

発行日:2011年1月28日(金)

発行者:NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク

理事長 高田 昇

明けましておめでとうございます。

今年もNPO 法人電線のない街づくり支援ネットワークの活動への参加をよろしく
お願い致します。

新年にあたり、理事・監事から皆さまへご挨拶を申し上げます。

◇理事長 高田 昇

寒波と共に、新しい年を迎えましたが、寒さに耐える中で、鍛えられて、明るい春が迎えられます。私たちが目指す電線のない街づくりも、今年大きく実現への道が開かれる予感があります。より多くの人たちに、私たちの存在と呼びかけを強めていきたいものです。

◇副理事長 木村 宗光

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

昨年は久しぶりに何度か海外に出る機会が有り今までになく町の景観、取り分け電柱や看板に目が行ってしまいました。中でもドイツの街の景観には感心させられます。元々それは有名な話ですが、中でもローテンプルグの再建はつとに有名です。元会社の同僚が同じく昨年ヨーロッパ8カ国を自転車で行ったようですが、こちらから何も言った訳では有りませんが同じ感想を漏らしていました。その中でルーマニアに行った時の事の話ですが、街の景観に驚いたそうです。今までのヨーロッパの国々とは異なり電線や電柱、いたるところに看板、そして新旧の建築物が入り乱れ雑然とした街並みに驚いたそうですが、その時直ぐに日本を思い出したそうです。この国が余りにも貧しいためなのか、はたまた政治の貧困のためなのかは分かりませんが、多くの旅行者が日本を訪れた時に同じ印象を持つであろう事は想像に難く有りません。

我が国ではまだ多くの人はこの事に気付いていないのが実態です。今年はその存在の実態と問題意識を持ってもらうため活動を機会あるごとにやらなければならないと思います。

◇副理事長 長谷川 弘道

新年明けましておめでとうございます。

日本の街から農山村まで電柱・電線をなくして、花や樹木、青い空・白い雲の美しい風景を取り戻したいと考えてNPO 法人無電柱化ネットに参加しました。

昨年の暮れから新年にかけて私の唯一の趣味であるカメラを持ち、冬の京都へ出かけました。寒風の中、枝葉が落ちて物静かで優雅な京都の街並みや庭の風景も、どこかで電柱・電線がチョット顔を出しがっかりします。今年も電線・電柱のない撮影が楽しくなる風景だけを訪ねた旅でもと考えていますが、NPOの皆さんから叱られそうですね。

◇理事 井上 利一

明けましておめでとうございます！

去年は待望の書籍を発行することができ、当NPOの活動にも弾みがつきました。今年も、さらに一歩進めて、大阪府との連携や、関係機関との連携を強め、日本の空を美しく世界に誇れるものにするために活動していきたいと考えております。

個人的には、電線類地中化に関する共著『電線地中化の経済効果と手法並びに評価方法—環境配慮の街は価値が高い』を出版予定です。本書を通じて、少しでも電線類地中化の価値というものを、日本に広めていければと思います。

NPOを立ち上げて今年で4年目になります。少しずつですが、私たちの活動も認知されつつあります。これも、活動をお手伝いしていただいている会員の皆様、そしてボランティア会員の皆さんや、インターンシップ生、理事のみなさん、事務局スタッフの努力のお陰様だと思います。ありがとうございます！

チャレンジ50！50年で日本の空から電柱電線を消せるよう、頑張っていきたいと思います。

今年も、ご指導宜しく願い申し上げます！

◇理事 森 建一

明けましておめでとうございます！

去年は当NPO法人にとっても、書籍の出版など節目の年となりました。

今年も、技術的な課題の解決と、会員の拡大による、さらなる電線類地中化の推進に向けて、積極的に活動していく所存です。

会員の皆様におかれましては、今後ともご支援、ご指導、宜しく願い申し上げます。

◇理事 山本 勇

新年明けましておめでとうございます。

去年はNPO NPCとして書籍「電柱のないまちづくり —電線地中化の実現方法—」を出版し大きな実績を残すことができました。この書籍は、今後の我々NPO NPC活動のみならず、「我が国における電柱のないまちづくり」に大きく貢献するものと考えております。「電柱のないまちづくり」に際してはトランス小型の必要性に代表される技術的な側面がクローズアップされますが、根本的な問題は公共空間の使用に対する関係者のモラル・倫理観の欠如（意識の問題）ではないかと考えております。昨年11月、機会があってスペイン・ポルトガルに行きました。ここでは新しい市街地での電柱は排除されている様子ですが、世界遺産登録の建物間であっても仮設的な空中配線が散見され、世界遺産としての景観をどう考えているのだろうかという疑問を持ちました。公共モラルが特に高いドイツではこの様な事は決して許されません。

今年の「電線のないまちづくり」活動は関係者への非難は避けつつ、モラル・倫理観に焦点を当てるのはいかがでしょうか？

◇監事 木村 亮介

新年明けましておめでとうございます。

このNPOは、大学生がインターン生として活躍する現場にもなっていて、去年もインターン生が企画した学生向けのセミナーが好評でした。最近、学生に電線地中化の話をする時、海外旅行や留学でヨーロッパに訪れた経験のある人は特に、「日本もパリのような街並みのところが増えたらおしゃれですね」と共感する人が多くなっているように感じます。

今年も、次世代を担う若者とともに電線地中化を推進するムーブメントを起こしていけるといいですね。

【特集】 滋賀県大津市の電線類地中化

今月は、久しぶりに電線類地中化の現場のレポートをお届けします。

レポーターは、インターンシップ生、池本大騎さんです。

滋賀県大津市でも電線類地中化が行われます！そこで今回は、大津百町の地中化に関わっている当NPO理事長であり、大津百町の歴史的資源を活かしたまちづくり研究会座長の高田理事長にお話を伺いました。

■大津百町の歴史

大津百町は、1600年関ヶ原の戦いで大津城が焼けた後、商業地域として再生させようと、離散した住民を呼び戻し、通り沿いに町家が作られて発展していきました。大津は、「湖都」であり、門前町、港町、宿場町、城下町といった様々な歴史や文化が重なるまちです。

■大津百町の街づくりの課題

しかし、現在大津百町は、大津市の中心市街地の主要な部分にありながら、

①郊外化・人口の減少・高齢化・商業活動の衰退等、によって賑わいが失われていること。

②豊富な歴史資源が十分生かされていないこと。

が問題になっています。

■大津百町の街づくりの方針

まず「歴史的な位置づけとしての印象を強く打ち出すこと」を狙い、旧東海道を軸とした整備を行うことが決定しました。そこで、「電線類地中化を行おう！」という声や、地域の住民から挙がりました。そして、市や専門家の入る研究会が結成され、電線類地中化の計画が進んでいきました。

当NPOではメールマガジンも配信しており、電線地中化に関するコラム・情報を月2回お楽しみいただけます！ぜひこちらにもご登録ください！

→ <http://www.mag2.com/m/0000266000.html>

当NPOのHP(ホームページ)でも、最新情報を詳しく載せていきますので、ぜひこちらへもアクセスしてください！
<http://nponpc.org/top.aspx>

